

公益財団法人  
成長科学協会

第29回公開シンポジウム

# 思春期の不思議

「思春期の不思議～人生の大切な時期の意義を知る～」

2016年6月18日(土) 13:30～16:30  
UDXシアター (秋葉原UDXビル4階)

参加無料

長谷川真理子 宮本信也 尾崎孝宏  
総合研究大学院大学理事・副学長 筑波大学副学長・理事 鹿児島大学法文教育学域教授

指定討論：児玉浩子 (帝京平成大学教授)  
司会：柿沼美紀 (日本獣医生命科学大学教授)  
麦谷綾子 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員)

## ●お申し込み方法

件名「第29回シンポジウム申し込み」に氏名、人数、連絡先(電話番号かメールアドレス)を明記のうえ、下記の成長科学協会事務局までお申し込み下さい。  
E-mail: kimoto@fgs.or.jp / TEL: 03-5805-5370 / FAX: 03-5805-5371

## INTRODUCTION

あいさつ



公益財団法人成長科学協会  
理事長：田中 敏章

成長科学協会の心の発達研究委員会(委員長：長田久雄)の活動の一環として、公開シンポジウム「思春期の不思議～人生の大切な時期の意義を知る～」を開催いたします。

思春期は二次性徴の成熟、成人身長への到達などの身体的変化と共に、心の発達にも重要な時期です。思春期の心の問題を、文化的側面、進化的側面、精神疾患などの面より、総合研究大学院大学長谷川真理子先生、筑波大学宮本信也先生、鹿児島大学尾崎孝宏先生に講演していただきます。ご参加の皆様も、積極的に質問・討論していただければ幸いです。

タイムスケジュール

日 時：平成28年6月18日(土)

テーマ：「思春期の不思議～人生の大切な時期の意義を知る～」

13:30 開会あいさつ

13:35 「思春期はその後の人生の指針を作る」  
長谷川 真理子(総合研究大学院大学理事・副学長)

14:10 「思春期の心の問題」  
宮本 信也(筑波大学副学長・理事)

14:45 「モンゴルの思春期—牧畜社会における子どもと大人の間」  
尾崎 孝宏(鹿児島大学法文教育学域教授)

15:20 〈休憩〉

15:35 指定討論

15:55 質疑応答・ディスカッション

16:30 閉会



## 思春期はその後の人生の指針を作る

長谷川 真理子 / 総合研究大学院大学理事・副学長、先導科学研究科教授

子どもの脳は胎児期から幼児期にかけて急速に大きくなり、10歳ではおとなの脳容量の90パーセントに達する。しかし、その後に続く思春期では、脳のいろいろな部分どうしの配線が強化され、また性ホルモンの影響が活発化することによって、脳の働きが大きく変化する。親や友達との関係など社会関係の認識や感じ方にも大きな変化が訪れ、自己と他者、現在と未来の自己の比較など、メタ認知が進む。感情の起伏が激しくなるが、強度の感動と落ち込みという感情を伴いながら、さまざまな社会的経験を急速に記憶の中に積み上げていく。

東京都在住の10歳児3500人以上を追跡調査していく、私たちのコホート研究から、幼児期からの言語発達、言語体験、言語を用いて思考する能力（国語の成績など）が、これらの思春期に起こる諸変化と自己の制御とに大きな影響を与えていることがわかった。ヒトに固有の生活史段階である思春期の意味について、進化的に検討してみたい。

## 思春期の心の問題

宮本 信也 / 筑波大学 副学長・理事、附属学校教育局教育長

思春期の子ども達が示す心の問題は、発達する過程での通常の悩みから精神疾患レベルまで多彩です。具体的には、尊大さと自己卑下や完全主義と自信喪失など両極端的な心の動揺、過換気発作や摂食障害などの心身症、不安症や強迫症などの神経症的な問題などが見られやすくなります。行動面では、反抗的な言動から暴力などの直接的な攻撃的言動、リストカットなどの内に向かう攻撃性、そして、自殺などがあげられるでしょう。

一方、思春期では、慢性身体疾患の治療コンプライアンスが下がり、病状が一時的に悪化しやすいことも知られています。また、発達障害のある子どもが、思春期に不安定になりやすいことも知られてきました。

思春期の子ども達が示すこうした心の不安定さは、病的状態を除けば、思春期の心理特性から理解できる部分が大きいこととお話したいと思います。

## モンゴルの思春期—牧畜社会における子どもと大人の間

尾崎 孝宏 / 鹿児島大学法文教育学域教授

文化人類学では子どもの成長は社会化、つまり子どもが規範を習得し、成員として位置づけられる過程として捉えられる。そして社会化は、文化によって多様に規定される。

モンゴル牧畜社会においては、子どもの移動の自由の拡大が期待される役割（牧畜労働の補助など）とリンクしている。特に自宅（ゲル）から離れた場所は時に生存にも関わるほど過剰に自由な空間である一方で、日々の生活は多様な協働が必須となっている。

モンゴル牧畜社会で思春期の子どもが置かれた空間特性は定住集落の学校と草原の家族との数日～数週間単位での往復であり、往々にして核家族以外の人々と生活を共にする。居住の自由度の高さはモンゴル社会の特徴の一つである。

財産面でも流動性の高いモンゴル牧畜社会では社会関係の構築が大人の課題である一方、窮地はしばしば空間移動によって解決可能である。またモンゴルの思春期は牧畜民として生活する技術を習得する時期でもあり、結果として日本とは異なった問題の出現形が見られる。

## 演者

### 長谷川 真理子 / はせがわ まりこ

総合研究大学院大学理事・副学長、先導科学研究科教授。理学博士。専門は行動生態学。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、東京大学理学部助手、早稲田大学政治経済学部教授などを経て現職。野生チンパンジー、クジャクなどの繁殖戦略を研究。最近は、東京都の10歳児3500人以上を対象のコホート研究により、ヒトの思春期の進化的解明に取り組む。

### 宮本 信也 / みやもと しんや

国立大学法人筑波大学副学長・理事、附属教育局教育長。医学博士、小児科医。専門は発達行動小児科学。金沢大学医学部卒業、自治医科大学小児科助手・講師、筑波大学心身障害学系助教授・人間系教授を経て、2016年より現職。この間、筑波大学附属聴覚特別支援学校長、筑波大学人間系長、特別支援教育研究センター長を歴任。

### 尾崎 孝宏 / おざき たかひろ

鹿児島大学法文教育学域（比較文明論）教授。専門は文化人類学。東京大学総合文化研究科博士課程（文化人類学専攻）単位取得退学。1999年より鹿児島大学法文学部助教授、同准教授を経て2015年より現職。2003年5月～11月にモンゴル国立大学開発研究センター客員研究員、2004年4月～2005年3月に北京日本学術研究センター副主任を兼任。

### 児玉 浩子 / こだま ひろこ

帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授。専門は小児栄養・代謝・内分泌。大阪大学医学部卒業、大阪大学小児科助手、自治医科大学小児科講師、帝京大学小児科教授を経て現職。小児科専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科指導医、日本臨床栄養学会認定臨床栄養指導医。

### 柿沼 美紀 / かきぬま みき

日本獣医生命科学大学比較発達心理学教室教授。専門は発達心理学。米国 Northwestern University 卒業、筑波大学地域研究研究科、教育研究科修了、白百合女子大学文学部博士課程満期退学を経て現職。

### 麦谷 綾子 / むぎたに りょうこ

NTTコミュニケーション科学基礎研究所人間情報研究部主任研究員。東京大学教育学部卒業、東京大学大学院医学系研究科修士課程修了、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員等を経て現職。

## 指定討論

## 司会